

平成30年度 学校評価自己評価表(最終評価)

学校教育目標  
自ら学び 自ら考え 行動する児童の育成

めざす子供像  
○ チャレンジする子  
○ 思いやりのある子  
○ 考え学び合う子  
○ 健やかな子

めざす学校像  
○ 子供が主役の学校  
○ 出会いと感動のある学校  
○ 地域と共に歩む学校

めざす教職員像  
○ 確かな授業力を持つ教職員  
○ 豊かな人間性を持つ教職員  
○ 愛情と使命感に満ちた教職員

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための計画	評価指標(評価方法)	担当	目標値	自己評価			評価(適切かどうか)			学校関係者評価 コメント	改善方策
						2月	達成度	評価	○ 適切	△ まあまあ	× 不適切		
確かな学力	○基礎基本の学力の向上	○つきたい力を明確にした授業づくり。 ○家庭学習の内容や方法を全校統一して取り組む。 ○言葉の力・文章を読み取る力を育成するドリルタイムの取組の推進 ○授業・補充学習・家庭学習のリンクを図り、基礎基本の学力の向上を図る。	○標準学力調査の基礎基本の力を問う問題において、国または県の算数・国語・理科の平均値を超える児童の割合 ○確かな学力について、通常学級が示している評価指標を達成する学級数の割合を8割以上にする。	教務部	80% 80%	59% 25%	D D	6 6	3 3	0 0	・頑張る力にかえてほしい。 ・家庭学習の必要を感じる。強化することが必要。 ・目標達成の指標を考える方がよい。	○基礎学力の定着については、つきたい力を明確にし、単元末の評価を意識した授業づくりを継続するとともに、学習内容を繰り返し復習する時間を設定し、取り組む。 ○ドリルタイムの改善と家庭学習の内容の工夫を図る。	
	○活用力や自ら学ぶ意欲の向上	○算数科・理科を中心に課題発見・解決学習を行う。 ○自分の考えを相手に伝えるための説得力のある説明の仕方について指導する。	○標準学力調査の活用力を問う問題において、国または県の算数・国語・理科の平均値を超える児童の割合 ○学び方アンケートにおいて、5つの学び方について肯定的な評価をした児童・教師の割合 ※アンケート5項目 ①課題発見力 ②思考力 ③伝え合う力 ④耐える力 ⑤自己肯定感	教務部	60% 80%	75% 児107% 教94%	C A	6 7	3 2	0 0	○活用力向上のための取組を進める。授業の中で、思考する場面を計画的に設定する。過去の問題を活用し、様々な形式の問題を解くことに慣れさせる。表・グラフ・資料などの見方を繰り返し指導し、それらの資料の意味を読み取ることができるようにする。 ○学び方アンケートについて、中間時よりも児童のアンケートで肯定的評価が上がったが、各学級での効果的な指導方法を交流し合い、指導に生かす。		
豊かな心	○自己指導能力の育成	○「あいさつ、返事、黙動」を徹底できるよう取り組む。	○「黙動」の学期末の個人評価で「できた」と答えた児童の割合	生徒指導部	70%	125%	A	8	1	0	・あいさつは人前(大勢)ではできるが、個々では言わない子がいる。	○黙動については、いつでも当たり前に行えることをめざして、今後も継続する。	
	○自分や人を大切にすることを実践力の育成	○人を大切にする教育を積極的に進める。 ○児童会を中心とした児童の主体的な活動を進める。 ○いじめアンケートの実施 ○計画的な教育相談の実施	○i-checkの自己肯定感の高い児童の割合 ○児童アンケートにおいて「いじめをなくすための行動をしている」の項目の肯定的評価の割合	生徒指導部	80% 70%	68% 96%	B	7	2	0	○児童の個々の自己肯定感を高め、いじめを許さない学級づくりを行う。そのためには、学級活動(1)の話し合い活動を重視し、自分たちの課題は自分たちで解決していくことを通して、お互いを認め合う支持的風土を高めていくことが必要だと考える。		
健やかな体	○体力の向上	○体育の授業の充実。体カテストにおいて課題があった項目については、体育の授業において継続した取組を行う。 ○体力アップ週間の取組の実施。 ○休業中の体力づくりの推進。 ○再体力テストの実施。	○「長座体前屈」では、県平均以上の児童を60%以上にする。 ○「50m走」のタイム(4月の記録と対比)一人あたり0.1秒ずつ記録を伸ばす児童の割合	保健体育指導部	60% 70%	110% 91%	A	8	1	0	○年度初めの体カテストをもとにして、計画的に取組を進めていく。 ○年間行事を見直し、その行事も活用して体力づくりを進めていく。		
	○基本的な生活習慣の確立	○月1回、ノーマディアティを設定し、自律的な生活習慣を身に付ける。 ○アンケートによる実態把握。 ○学級指導等を通して、自律的な生活習慣の重要性を理解させる。	○月1回の取組の結果、守れた児童の割合	保健体育指導部	60%	94%	A	8	1	0	・ノーマディアは自己申告なのだから、全面的に信用してよいものだろうか。 ○「ノーマディアの取組」に積極的に取り組む児童が増えてきた。振り返りの内容からも、テレビなどのメディアに依存した生活を送っていたことに気づき、メディアとの付き合い方を考える必要性を実感できていることが分かる。 ○来年度に向けては、目標設定の方法を工夫し、設定しやすく、なおかつ、加計小学校全体の取組の成果が分かりやすい方法にしていく。		
信頼される学校	○保護者・地域とのつながりを深め、信頼を築く地域貢献を実践する。	○定期的かつタイムリーに、HPや学校たより等で保護者・地域に情報発信を行う。 ○特別活動、生活科、総合的な学習の時間を中心として、地域素材を活用し、地域の活性化につながる学習を展開する。 ○地域と連携した教育活動を仕組み年間各学年2回以上設定し、地域貢献活動を行う。	○保護者アンケートにおいて、「信頼される学校」に関する項目の肯定的評価の割合 ○学校運営協議会において、「学校の地域貢献度」についての聞き取りの結果、肯定的評価の割合	総務部	90% 85%	108% (105%)	A (A)	8	1	0	○7月の時点で、「きちんと伝わっている」の項目で、「よくあてはまる」は約44%、「適切な対応」は約34%だったことと比較すると、適切な対応について伸びが見られた。日々の連絡ノートやタイムリーな家庭訪問等で、子供の実態について連携し合い、悩みや願いを共有していくことを今後も継続する。 ○地域連携については、学年によって内容や実態などに差が生じている。効果的な連携を視野に入れて、年間計画等の見直しを進める。		

評価基準	A	達成率が90%以上
	B	達成率が80%以上90%未満
	C	達成率が60%以上80%未満
	D	達成率が60%未満